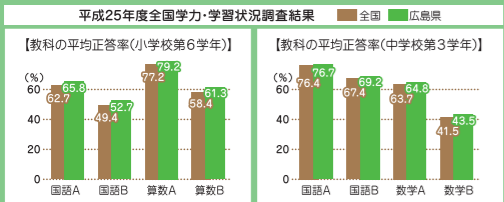


「知・徳・体」の基礎・基本の定着

知 学力向上には家庭での学習習慣がカギ!

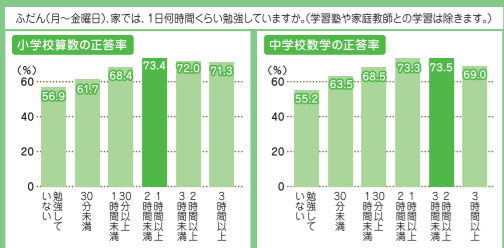
本県の児童生徒の学力について

平成25年度全国学力・学習状況調査によると、小・中学校すべての教科の「平均正答率」が全国平均を上回っています。



家庭学習の時間と学力の関係について

平成25年度「基礎・基本」定着状況調査によると、小学校では、普段の家庭学習の時間が1時間以上2時間未満であると回答した児童の平均正答率が最も高く、中学校では、普段の家庭学習の時間が2時間以上3時間未満であると回答した生徒の平均正答率が、最も高くなっています。



家庭における学習習慣を定着させることが大切です!

家庭学習を定着させるための「ポイント」

- 決まった場所(自分の机、リビングなど)で宿題や予習・復習などを
- あらかじめ計画(学習する内容)を立てて行い
- 終わった後は、計画どおりできたかどうかを確認する。

徳 3泊4日の長期集団宿泊活動とおして子供たちの成長を実感!

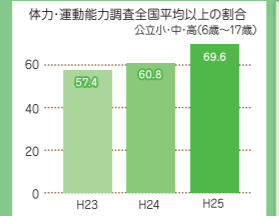
平成25年度実施率は21%(102校/494校)であり、推進校の子供たちには、体験活動の前後で比較すると、「責任感」「自尊心」「思いやり」「協調性」「コミュニケーション能力」の高まりがみられます。保護者の皆さんからも、体験とおして「自分のことは自分でできるようになった」「自分の思いや考えをはっきり伝えることができるようになった」など、子供の成長を実感した感想を多くいただいています。今後とも、さらに多くの学校での実施を目指します!



体験活動は、与えられた役目を果たす力を含めて何かを成し遂げるなど、達成感を体感する機会でもあります。

体 平成25年度 広島県児童生徒の体力・運動能力調査結果 児童生徒の体力は改善傾向!

平成25年度の広島県の調査と全国調査を比較すると、全国平均以上のテスト項目の割合は69.6%で、平成24年度の60.8%から8.8ポイントアップしました。校種別では、小学校で男女ともに全国平均以上の項目が多く、中学校・高校では、「上体起こし」や「反復横とび」など約半数の項目が、全国平均以上となりました。引き続き、各学校で作成した「体力づくり改善計画」に基づき体力向上を図っていきます。



体全体を使って遠くへ跳ぶぞ! 楽しみながら様々な動きを身に付けます。

知・徳・体の基礎となる食育

ひろしま給食100万食プロジェクト みんなで100万食を達成!

「ひろしま食育ウィーク」を中心に、副菜の公募や親子料理教室の開催等、市町や学校等で様々な取り組みが展開された結果、100万食を達成しました!今年も保護者の皆さんにもっと参加していただけるよう工夫します。引き続き、学校・家庭・地域が一体となった食育を推進することで、栄養バランスのとれた望ましい食生活を実践する力を育成します。

【みんなが食べた「ひろしま給食」の食数】	目標	実績
学校給食	20万	566,825
家庭等	80万	447,817
合計	100万	1,014,642

社会が求めるグローバル人材の育成

平成25年度県立学校海外交流推進事業 世界で羽ばたく学びのチカラを応援しています!

グローバル社会に対応できる幅広い視野を持ち、自分の意思で行動できるコミュニケーション能力の高い「人づくり」を目指し、県立学校と海外の学校との姉妹校提携の促進や、生徒の留学支援などを実施してきました。本事業の活用によって、平成26年3月末までに、全ての県立学校(97校)が海外の学校と姉妹校提携を締結しました。今後は、生徒や教員の相互交流など、姉妹校との交流活動を活性化させます。

ニュージーランド パーンサイド高校と姉妹校提携 取組事例

平成25年8月、学校長と教員が現地を訪問し、姉妹校提携の調印式を行いました。ニュージーランドを提携先としたのは、日本と時差が少なく、治安が安定していたためです。9月には、パーンサイド高校から教職員が来校し、広高校の生徒と交流会を持ちました。1年生の6名が3ヶ月間(1/20~4/21)、パーンサイド高校に留学しています。



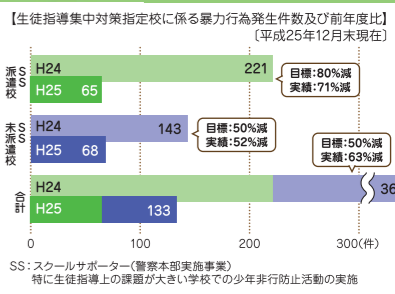
パーンサイド高校に留学中の生徒たち。現地での生活や体験を通じ、視野を広げています。

- 自ら進んで行動する力や発言する力が付きました。
- 留学して自分をしっかりもつことの大切さが良くわかりました。
- 始めは自分の英語力では、ネイティブの生徒達と一緒に学ぶことは大変でした。今ではマオリ文化などを学び、充実しています。
- 授業でのインターネット環境が整っていて、スマートフォンやタブレット端末を使って知識を広げています。
- 英語力とコミュニケーション能力アップを目指して頑張ります。
- テストの結果によってクラスが分けられるので、自分のレベルにあった授業を受けられるのが良いと思います。

安心して学べる教育環境の確保

平成25年度生徒指導集中対策プロジェクト 生徒指導のプロジェクト継続中! 大きな成果が見えてきました

暴力行為をはじめとする生徒指導上の諸問題が頻発している学校に、学校支援プロジェクトチームを集中的に派遣し、学校の組織的な生徒指導体制の向上・強化を進めています。指定校における同年同時期の暴力行為発生件数は12月末現在で63%減少しており、大きな成果が見られます。今後は全県にこの取り組みと成果を周知していきます。



- 「取り組みと成果」
 - ①「生徒指導」 生徒指導の基準となる生徒指導規程を整備し、この規程に基づいて「社会で許されない行為は学校においても許されない。」という学校の姿勢を明確に示し周知することで、児童生徒・保護者に安心感を与えることができました。
 - ②「学習指導」 一斉画一的な授業だけではなく、児童生徒に発表させたり、ペアやグループで活動する場を取り入れたりする学校が増えました。
 - ③「学校経営」 教師と生徒がかかわる時間を確保するため、業務改善を組織的・継続的に進めたことにより、校長の方針に沿った学校づくりが推進されてきました。
- 「今後の重点的な取り組み」
 - ①検学・補導された児童生徒の学校生活適応プログラムの作成・実施
 - ②地域やNPO法人等と連携した立ち直り支援
 - ③少年育成官(少年サポートセンター)等との連携

生徒の自主的な活動で安全で安心な学校をつくる 取組事例

尾道市立栗原中学校の場合
安全で安心な学校にするため、「ゼロプロジェクト」を立ち上げ、毎月、生徒会を中心として、生活重点目標を設定し、生徒が自主的・自発的にいじめ・暴力行為・遅刻をゼロにする取り組みを進めています。

生徒会が主体となり、生徒のための授業を進めていく様子

いじめの問題の未然防止、早期発見、早期対応に取り組みます

- いじめは「どの子供にも、どの学校にも起こりうるもの」という認識に立つことが重要です。
 - いじめの問題の未然防止を回り、いじめの早期発見・早期対応が大切です。
 - 学校を含め、地域社会全体でいじめの問題に取り組むことが求められています。
- このため、広島県として、いじめの問題の克服に向け、いじめ防止等の基本的な方向を示す「広島県いじめ防止基本方針」を定めました。

県が設置するいじめ防止や対策のための組織
広島県相談機関ネットワーク 広島県いじめ問題調査委員会
 県内の相談機関相互の連携及び関係機関の連携を密にし、相談機関の指導内容・方法の充実を図り、いじめや不登校等の問題の解決に向けた取り組みを行います。
 第三者の専門家(心理や福祉の専門家、学識経験者、元警察官及び弁護士等)で構成し、いじめによる自殺等の重大事態について、広島県知事又は広島県教育委員会が調査が必要と判断した場合、公平性・中立性を確保した調査を行います。

自ら学び、広い視野を身に付け、グローバル社会で活躍する人を育成していきます。

広島県子供の読書活動推進計画(第三次)策定!

取り組みの柱	重点的に取り組む内容
本に親しむ	乳幼児期からの本の読み聞かせ 保護者が、読み聞かせの大切さや工夫などについて学べる参加・体験型のプログラムによる学習の機会を提供します!
たくさん読む	学校における全校一斉読書活動の推進 学校では、全校一斉読書活動100%を継続させ、1か月に1冊以上本を読む子供を増やします!
目的に応じて読む	学校における読む力を育てる機会の提供 学校では、教師が様々な本や資料を基に、自分の考えをもたせる指導の充実を図り、子供達の読む力を育てます!
本から学び 自らの考えを深める	本を読んで自分の生き方を考え、表現する機会の提供 これまで実施してきた「ことばの輝き」優秀作品コンクールの中に「読書感想文部門」を新設し、子供が本から自分の生き方について考えていく機会を増やします!

「広島県の子供は日本一たくさん本を読む」ことを目指します!



幼稚園での読み聞かせ

本好きな学生たちがお気に入りの本を紹介(県立図書館)

今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画

県立高等学校教育の在り方	主な取り組みの方向性
高等学校教育の機会均等の確保と質の水準の維持向上 ●全県的な視野に立ち、県立高等学校を県内各地域にバランスよく配置	普通科類型 地域の医療や教育を支える人材を育成する観点から、実践的・体験的な活動などを重視する類型の設置を検討します。 探究科 高等教育機関と連携しながら、知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視する学科への改編を検討します。
グローバルに活躍する人材・地域で活躍する人材などの多様な人材を育成 ●将来の夢や目標をもって学び、その実現に向けた学力を定着・向上 ●社会人・職人として自立するために必要な資質・能力の育成 ●グローバル社会に生きる力の育成	フレキシブルスクール 幅広い授業時間帯の中から、授業あるいは通信教育の学習形態を選択して自分のペースで学習できる学校の設置を検討します。 グローバルリーダーの育成 教育プログラムの研究・開発、学校の在り方などを検討します。 併設型中高一貫教育校 広島中学校・高等学校の成果を広めるために、新たな併設型中高一貫教育校の設置を検討します。
学校の規模 1学年6学級を標準 中山間地域の学校は2~6学級の範囲内を基本とします。中山間地域以外の地域の学校は4~8学級の範囲内を基本とします。	学校の配置 生徒が、自分の興味・関心、能力・適性、進路希望等に応じて、学校・課程、学科等を選択することができるよう、全県的な視野に立つて学校の配置を検討します。
学校の活性化 1学年1~3学級規模の学校 学校間の連携を進めるとともに、地域と連携した特色づくりを推進します。	1学年1学級規模の学校 学校活性化地域協議会で活性化策を検討し、検討結果を踏まえ、各学校において活性化策を実施し、在籍80人以上の維持を目指します。

今後の県立高等学校の在り方について、長期的(平成26~35年度)かつ全県的な視野に立って、計画的・段階的に取り組み、必要に応じて見直しを検討していきます。